

超感度



VOL.15

ちょうかんど2026.2.1

昭和100年を記念 昭和の名曲響く

心をつなぐ「日芸ふくしま歌謡祭」開催報告



出演者と石川江古田会の皆さんで記念撮影

2025年は昭和で言うと100年にあたりました。音楽祭の公演テーマは昭和100年でした。4月20日に開催した「日芸ふくしま歌謡祭」は、昭和を彩った名曲が中心となりました。数ある中から選んだメロディーは地元福島を代表する演歌歌手、春日八郎。日大高校出身の坂本九。日芸OBがメンバーのひとりであるGAROの「学生街の喫茶店」、小野町出身の作詞家丘灯至夫が書いた「高校三年生」などを演奏しました。

丘灯至夫は高校の体育祭で男女生徒がフォークダンスを踊る姿に鮮烈な感動を受け、「フォークダンスの手を取れば甘く匂うよ黒髪が」のフレーズは丘が通っていた郡山商業から生まれたと言われています。心に寄り添ってくれた昭和歌謡を演奏することが大学や郷里の先輩方への尊敬と感謝であると感じ演奏者はステージに上がりました。

出演者の中に石川江古田会の干場文夫事務局長がいました。地震が縁で福島と石川がつながり干場さんは舟木一夫のヒット曲「高校三年生」を酒井会長と一緒に歌いあげました。会場につめかけた昭和世代の人たちは「あーかーいーゆうーひが



一校舎をそーめーてー」とメロディーを口ずさみステージと会場が一体となって盛り上がりました。

ピアノの菅野明日香さん、テルミン&ピアノ本橋祐美子さん、ウクレレ白石宏道さん、ギターの井上仁一郎さん、皆さん得意分野ではない昭和歌謡に協力してくれました。歌手のキーに合わせて楽譜を移調したり編曲したりとギリギリまで調整しましたが、結果として披露されない曲もあったのは残念でした。このように現場はざわついてバタバタでしたが、何とか歌謡祭が実現できたのも皆さんのおかげです。

さて、次回も音楽イベントをやります。2026年は東日本大震災から15年の節目の年となります。そこで写真と音楽をミックスさせたライブを開催します。震災前のうつくしい故郷。震災に直面し肉親を亡くしたり避難を余儀なくされた人々の心情、地震から希望を持って復興へ向かっていった今の福島を音と映像で紹介していく予定です。震災を体験した私たちが後世に祈りをつないでいく公演になればと考えています。開催は6月28日(日)ミュールがくと館です。写真学科卒の小松拓也さんと放送学科卒で郡山写真部に所属している昆愛さんが写真を提供してくれますが、演奏や写真を協力していただける方がおりましたら連絡をお願いします。

※酒井メールアドレス⇒cys03204@gmail.com

ふくしま江古田会の活動報告とOBの活躍をまとめてお届けします

ふくしま江古田会レポート①

日芸が誇る活動写真弁士・片岡一郎さん、郡山に登場!

11月15日、郡山市歴史情報博物館にて、日芸OBで世界的に活躍する活動写真弁士、片岡一郎さんによる映画上映会「甦る怪盗!ジゴマ・ナイト」が開催されました。上映したのは、大正時代に日本で大ヒットしたフランスの無声映画「ジゴマ」。100年以上前の作品が、片岡さんの力強くも繊細な「カツベン」によって現代に甦り、会場は終始大きな興奮に包まれました。今回の上映会では、田中副会長が運営を担当。酒井会長、神山さん、熊耳さん、小松さんも駆けつけ、満席となった会場で、OBの活躍を誇らしく感じるひとときとなりました。第一線で活躍する日芸OBの姿に、参加者一同、大きな刺激と感動をもらいました。



上映会の様子



片岡一郎さん(左から二人目)と

ふくしま江古田会レポート②

日芸校友会 支部長会議に出席

7月5日(土)、日本大学藝術学部・江古田キャンパスにて「日芸校友会 支部長会議」が開催されました。酒井会長の代理として、ふくしま江古田会からは田中聡副会長が出席。北海道、岩手、宮城、山形、ふくしま、東京、長野、愛知、石川、岡山、佐賀、熊本、宮崎、鹿児島、そして台湾と、15支部が一堂に会しました。会議では、各支部の活動紹介や課題共有、意見交換が行われ、その後の校友会総会を経て、夕方からは学生食堂で懇親会を開催。現役学生によるアカベラ、エンタメ業界で活躍するOBのパフォーマンスなど、まさに「日芸らしさ」満載の時間となり、他支部との交流を深める良い機会となりました。



懇親会での記念写真



神山先輩を悼む

神山靖範先輩は実に楽しい方でした。福島中央テレビ時代には「輸入博」や「ビールまつり」を企画し私たちを楽しませてくれました。飲み会が大好きでふくしま江古田会の懇親会には必ず出席していました。先輩のトークはラジオを聴いているような感覚でした。先輩がFMふくしまでも活躍できたのはこうしたパーソナリティからだと思えます。

趣味も多彩でした。オートバイ、バスケ、水泳、尺八、書道など何でもこなしました。80歳を超えてもシニアの水泳大会に積極的に参加され、昨年は全国大会にも出場しました。とても健康的で彩りのある人生を楽しんでいた方でしたので、お亡くなりになったと聞いて絶句いたしました。作詞:丘灯至夫,作曲:古関裕而。「高原列車は行く」の歌の背景を教えてくださいました。印象に残っています。82歳と、ずいぶん早いお迎えでしたが安らかにお休みください。合掌

会員近況 順不同 敬称略

◆会社勤めをしながら郡山写真部の副代表として写真を通して地域の魅力を発信する活動に取り組んでいます。(昆愛)◆何だかんだと忙しくしております。(松盛明子)◆会津人群像第48号に「日本で初めて洋式牧場を拓いた男広沢安任」を書きました。49号に「会津に生涯を奉げた出石藩士川崎尚之助」を書きました。(高見沢功)◆いわき駅前再開発のマンションの1階に「Long Tone」というカフェバーをオープンしました。(野沢達也)◆4月20日の歌謡祭に出演させていただき誠にありがとうございます。(菅野明日香)◆オカリナと竖琴の教室を運営し、大人の生徒さんに教えています。社会福祉士の資格を活かして発達支援センターの児童支援員の仕事もしています。(安川ゆみ子)◆一般の方にもガラス絵の楽しさ、面白さを知ってもらおうと企画展を開いています。(増賀睦朗)

編集後記

毎年恒例のオール日大校友会福島県支部総会が9月に開催され、芸術学部の代表として古賀幹事長が出席しました。音楽祭を毎年開催している実績を紹介しました。アナウンサーが登場して会場は多いに盛りあがったようで「さすが話のプロ」「江古田会のエース」の呼び声が高かったようです。